



地理の写真館 ジンバブエを歩いて

ヴィクトリア滝や大ジンバブエ遺跡（大ジンバブエ国立記念物）といった観光資源に恵まれるジンバブエ共和国（以下、ジンバブエ）ではあるが（写真①：首都ハラレ郊外の風景）、個人旅行には極めて厳しい状態が続いている。その理由には、急速なインフレがある。正規の銀行レートでは1US\$が250Z\$（ジンバブエ・ドル）であるが、実勢レートでは20万Z\$とおよそ800倍の開きがある。100US\$を両替すると、流通しているなかでは最高額紙幣である10万Z\$で200枚。ジャケットのポケットが札束で膨れる。しかし政府はインフレの事実を認めずに物価を低価格で固定。その結果、市場にはまったく物が流通しないという異常な状態が続いていた。生産者にしてみれば、出荷するほど大損だ。だからスーパーには何も商品がなく（写真②）、ガソリンスタンドにもガソリンがない。

しかし、人間は底抜けに明るい。たくさんのジンバブエ人と酒を飲み、食事をともにしたせいかとく

レートなどは2007年8月現在。その後、2008年1月18日から、最高額紙幣として1000万Z\$札が導入された。

にそう思う。朝から晩までターミナルでいつ来るとも知れないバスを待ち（写真③）、結局日が暮れたことがあった。怒りを通り越してあきれるが、彼らは「明朝6時のバスには乗れるよ」と笑う。ちなみに翌朝5時にターミナルに着いたら、バスはすでに乗客があふれ、5時半に出発した。スーパーでも人々は、1斤のパンを買うために3時間も行列をつくり、ひたすら待ち続ける（写真④）。もう慣れてしまっているのか、誰も文句を言わない。このような状況下で革命が起きないことが、不思議で仕方がない。そのことを訪ねると、「年明けには選挙があるから、この状態も少しはましになるだろう」とこともなげに言われた。

確かに、ヴィクトリア滝も大ジンバブエ遺跡もすばらしかった。しかし、今思い出すのは、ジンバブエという土地に住む人々のことばかりだ。

（浜松学芸高等学校 鈴木健一郎）

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。海外巡検などで撮影された地理的写真を、資料編集部「地理・地図資料」係までお送りください。